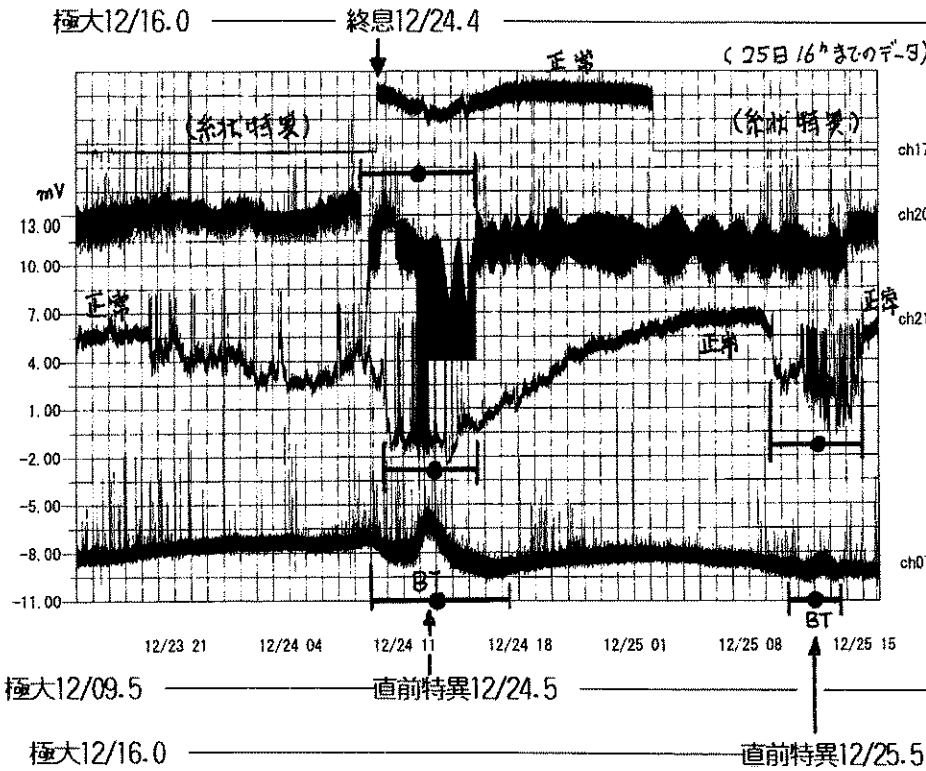


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1996

No.1778 長期継続前兆 続報 可能性①の見解通り 12/24前兆は 12/09.5極大の直前特異の可能性
第12ステージの極大12/16.0 に対する直前特異⇒本日12/25.5 出現認識⇒12月27日発生の可能性を示す見解変わらず



Tfap:Tpp=6:1 経験則⇔12月27.3日±

No.1778前兆第12ステージは、12月11.0日初現で、12月16.0日極大認識でした。この関係からTfap:Tmap=20:13 経験則を使用しますと、12月26日±1 が計算できました。

長期継続していたCH21特異が12月23日夕刻ほぼ正常化したのに加え、長期継続していた完全糸状態のCH17が12月24日午前中に終息したことから、12/16.0 極大~12/24.4 終息の関係をTfap:Tpp=6:1経験則を使用しますと、12月27日が計算できました。

しかし12月24日に前兆が顕著化したものがありました。この前兆を第11ステージの極大12/9.5に対する直前特異 12/24.5として計算すると12月27日が示され、更に第12ステージの極大12/16.0 に対する直前特異が本日出現認識。この関係も12月27日を示します。

Tmap:Tpa=6:1 経験則⇔12月27.5日±

Tmap:Tpa=6:1 経験則⇔12月27.4日±

前情報報告の通り12月24日に前兆終息の可能性がありましたが、24日に前兆が再出現。これを直前特異と考える=可能性①の場合と、新規前兆=可能性②の可能性がありました。しかし、24日の前兆は短時間の出現で、可能性②は否定。可能性①の直前特異の可能性が濃厚。更に最終極大の12月16.0日に対する直前特異と認識される前兆が本日出現。CH17を除き既に静穏化。あまりに計算通りの変化で、偶然にしては不自然。残るCH17糸状特異も明日12月26日昼頃までは静穏化の可能性有。明日午後0の状態の前兆が完全終息していた場合は、現在の第12ステージが最終ステージで、示される12月27日が対応地震発生推定日の可能性有。

- 領域推定根拠: 前兆出現影響局位置から前兆出現ドーナツ円を重ね、推定領域を求めた。
- 規模推定根拠: 複数の極大時に出現した連続BF (PBF) 出現継続時間計を測定。継続時間計=Ahとしたとき $\text{Log Ah}=0.5M-1.8$ 経験則使用で求めた。
- 時期推定根拠: 上の前兆出現時間変化経験則を使用。
- 地震種推定根拠: 1年を超える前兆継続は浅い地殻地震例のみ。多数観測装置前兆より陸域推定。
- 発生時刻推定根拠: 基線幅増大BTの日々変化時刻と発生時刻との相関より。複数のBT変化より求めた。

- ◆推定領域: 右図 太線領域内=大枠推定領域
斜線領域=可能性が考え易い推定領域 (斜線域周辺も含まれる可能性有)
(※影響局誤認の場合は東北領域 (可能性低い見解))
- ◆推定規模: $M7.8 \pm 0.5$
- ◆推定時期: 12月27日
※但し12月27日に前兆極大が出現した場合と28日迄に対応地震発生が無い場合は、観測データを鑑み再考。
- ◇推定地震種: 震源が浅い日本列島の地殻地震 (陸域)
- ◇推定発生時刻: 午前09時±1 (又は午後06時±3)



※明日12月26日午後段階で前兆が顕著に出現していた場合は、検討した後、続報。
※20年の観測歴上、最長継続前兆かつ複数極大と複数ステージを有する特殊前兆です。上記地震内容推定根拠にも測定ミスや何らかの認識間違いがある可能性も否定できません。その場合はお許し下さい。